

6月11日(土)に行われた坂祝町青少年町民の集い～元気なさかほぎ発表会～で
青少年の主張発表を行った前田亜衣さんの作文です。



青少年の主張
Opinions of Teenager
発表作文



「別れの仕方」

坂祝町立坂祝中学校 3年 前田 亜衣

私には、たくさんの方の友達と家族がいま
す。私は、毎日、友達や家族と楽しく遊
んだり、ご飯を食べたり、おしゃべりを
したりして、とても充実した生活を送っ
ています。しかし、このような生活がい
つか崩れてしまう時が来ると思います。
その時は、「別れ」だと思います。
私が「別れ」を意識するようになった
のは中学1年生の時からです。その日も、
いつも通りの朝を過ごそうとリビングへ
朝ご飯を食べに足を運びました。いつも
通り私の朝ご飯を運んできた母が突然、
「○○さん、亡くなったんだって」と口
にしました。それを聞いて、私は持って
いた箸を落としそうになりました。○○
さんは、私が小さい頃からよく遊んで
らって、お世話になっていた方です。
その時の私はあまり深く考えず、
「そっか」とそっけなく返事をし、黙々
と朝ご飯を食べ続けました。その日の夜、
私はその方のお通夜に行きました。会場
に着くと、たくさんの方で溢れ返って
いました。そのたくさんの方が焼香を待っ
ている時、○○さんの写真が目に入りま
した。その時、私は○○さんが亡くなっ
たことを初めて実感しました。実感した
途端、「もう遊べないし、声も聞けないし、
会えるどころか、見かけることすらでき
ない」と気が付き、○○さんと過ごした
日々が私の頭の中を駆けめぐりました。

そして、私の目から涙がこぼれそうにな
りました。私は、この日、初めて人が亡
くなってしまった辛さと別れの悲しさを知
りました。人が一人いなくなってしまう
ことは、大きな辛さと大きな悲しさを与
えます。そのため、私は「別れ」は幸せ
な生活を崩してしまう時だと思いまし
た。
しかし、別れを避けて生きていくこと
はできません。なぜなら、人は死んでし
まうからです。どれだけ死ぬことが嫌で
も、どれだけ大切なものがあつたとし
ても、絶対通らなくてははいけません。しか
し、いじめや虐待などで自殺して亡くな
るのは、あつてはならないことだと思
います。
昨年の自殺者数は21007人。この
内、学校問題で亡くなった人は370人、
家庭問題で亡くなった人は3100人、
男女問題で亡くなった人は777人、一
番多いのは健康問題で亡くなった人で9
860人でした。他にも経済、生活、勤
務問題で亡くなった人もいました。この
21007人皆さんには今、ここにいる
皆さんと同じように大切な人がいたはず
です。そして、叶えたい夢や、やり残し
た目標もあつたはず。見た目や個人
の事情だけで、自殺に追い込むまでのい
じめや虐待をするのはどうでしょうか。
私はそのようなことをする人は許せない

し、許してはいけないと思います。この
世に亡くなっていい命なんて1つもあり
ません。
では、このようなことをなくすにはど
うしたらよいのでしょうか。私は話をす
ることが大切だと思います。いじめをし
てしまう人は、相手をよく知らないまま、
勝手なイメージを持っていて人が多いと
思います。しかし、相手のことをよく知っ
ていたら、相手の良さを知っていたら、
いじめは起こらないでしょうか。それ
も、相手の嫌なところを見つけてしま
うことがあるかもしれません。そんな時は、
相手と過ごした時間を思い出してみ
てはどうでしょうか。嫌なところと今
までを天秤にかけてみたら、今までの
方の方が重いのではないのでしょうか。
「別れ」は辛くて悲しい出来事です。
そして、「別れ」はいつ訪れるか分
かりません。もし、その「別れ」が、い
じめや虐待による自殺だったとしたら、
私はもつと辛くて悲しいと思います。そ
うな亡くなり方がないような世の中
にするために、私は、一人ひとりの関
わり方を見直していきたいです。私の
この行動で誰か一人でも多く救える
未来を願って、これからは過ごしてい
きたいです。

6月11日(土)に行われた坂祝町青少年町民の集い～元気なさかほぎ発表会～で
青少年の主張発表を行ったバットライロシャンさんの作文です。

青少年の主張 Opinions of Teenager 発表作文



「先生のやくわり」

中日本自動車短期大学 2年 バットライ ロシャン

みなさん、こんにちは。ネパールからまいりました、バットライロシャンと申します。今から、私は、「先生のやくわり」というテーマで発表させていただきます。どうぞよろしくお願いたします。みなさん、私たちは、小さいころから先生にいろいろなことを習っています。私たちは小さい時、学校に入って、きちょうな時間をあたえてくださる先生に会います。その時から私たちの勉強の時間が始まります。英語では「ティーチャー」、日本語では「先生」、ネパール語では「グル」と言います。ことばではわかりませんが、先生がどういう人か知るのとは、とてもおもしろいです。みなさんのお父さんとお母さんは、本当のご両親です。それに対して、学校の先生は、第二の両親のやくわりを果たします。

ネパールのヒンズー文化では、子どもたちは毎朝、(両親を尊敬する意味で)お父さんとお母さんの足にさわります。それからお父さんとお母さんは、子どもたちの頭に手を置き、今日一日、勉強を頑張るように、かみさまにおいのりします。先生も、二番目の両親ですから、これと同じです。せいは毎朝、先生の足にもさわります。

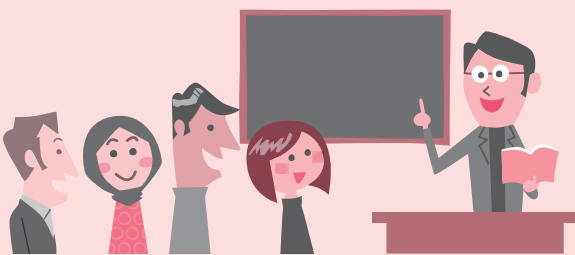
ネパールの学校では、授業中に、授業とかんげいのない話をしてはいけません。授業と関係のないおしゃべりしているせいは、教室の外に出されます。なぜなら、せいは学びにきているからです。別の話をしていることは、先生をそんけいしていいことになりません。今、日本の学校で、そんなルールはあまりないと思います。

人生で勉強はとても重要です。もしも読み書きができなかつたら、いい人生を送るのがとてもむずかしくなります。小さい時から今まで、ネパールの先生だけでなく日本に来てからは日本の先生がたくさんのことを教えてくださいました。

私は今、日本語でスピーチを書いて、日本語で話しています。それも、先生のおかげです。もし、先生がいなかつたら、私は日本で何もできなかつたと思います。

もいるかもしれませんが、それ以上に生徒たちの人生と夢のために働く先生はたくさんいらっしゃいます。その先生がたは、私たちに、正しい道の歩き方を教えてくださいかけています。私は心から、私のすばらしい先生がたをそんけいいたします。正しい道を一歩一歩、歩んでいけば、私の夢もかなうと思います。そんな、人生で大切なことを教えていただいた先生がたに出会えたことに、私は今感謝しています。

さいごまで聞いていただき、ありがとうございます。



※原文表記のまま掲載しています。